

舍利礼文（しゃりらいもん）

平成31年4月第2週放送

インドのクシナガラ郊外、沙羅双樹さらそうじゆのもとで八十歳のご生涯を終えられたお釈迦さまは、荼毘だびに付されました。そのご遺骨は、八つに分けられ、その他にご遺骨をおさめた容器、そして残った灰であわせて十ヶ所に納められました。その約二百年後、インドを統一したアショーカ王が掘り出して、八万四千に分けられ、それぞれストゥーパとよばれる塔まつに祀られたといわれています。

初期の仏教では、仏像を造る事はしなかった事もあり、お釈迦さまのご遺骨と、それが祀られるストゥーパとよばれる塔を信仰の対象として大切にしていました。また後年こうねんは更に分けられてその教えと同じように日本を始め、世界各国に伝えられています。

お釈迦さまのご遺骨はインドで遺骨を表す「シャリーラ」という言葉うつを写し、それに仏の字を付けて「仏舍利（ぶっしゃり）」とよばれています。

さてこの「仏舍利（ぶっしゃり）」を礼拝する『舍利礼文（しゃりらいもん）』という、漢字七十二文字の短いお経があります。

その内容は・・・

あらゆる功德を備えるお釈迦さまの舍利と、その教えにふれ、礼拝のできる象徴としての塔婆、仏塔を一心に礼拝します。

私達が敬い礼拝すると、仏さまが現れて、私の中に入り、私も仏さまの中に入り、そのはたらきによって、私はさとりを実現し、あらわす事ができるのです。

そして仏さまの力をもって他の人々に利益を与え、道を求める心をおこさしめて、菩薩の修行をさせてくださり、皆、同じように静寂なる涅槃に入ります、私は今将に分け隔て無く行き渡る偉大なる智慧を、頂戴し礼拝いたします。

というものです。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

このお経の成立年代については詳しくはわかってはいませんが、仏教が中国に伝わって以降の事のようにです。曹洞宗ではこのお経を様々な法要でお唱えいたします。

お釈迦さまのご遺骨への礼拝が、自身の修行の支えとなり、さとの実践となる。そして自身のみならず多くの方々の幸せに繋がるというこのお経。様々な環境にいる方々が、同じようにお釈迦さまをお慕い申し上げているという、思いのつながりを感じずにはられません。

また、現在の墓地に建てる塔婆もストゥーパを模したものといえます。「仏舎利(ぶっしゃり)」への信仰と同じようにご先祖を敬っているともいえるのではないのでしょうか。

『舎利礼文(しゃりらいもん)』は、短いお経ですので、お唱えしてみてもいいのではないでしょうか。

— 終 —